



「174のこころ」 砂のアート

晴れ渡った空に新緑が映える季節。新年度がスタートして一か月が過ぎました。1歳児の子どもたちも、一人ひとりその子のペースで、新しい環境にも慣れてきて、泣いていても保育者が優しく抱っこすると、やがて安心して遊びだせるようになってきています。今では遊びの場所も広がり、保育室だけでなくテラスや園庭でも安心して楽しめるようになりました。そこは、子どもたちにとって、ワクワク・ドキドキの冒険があふれる場所となっています。



ある日、Eさんが砂場のテーブルに砂をひろげ、指でさわりはじめました。そばでそっと様子を見てみると、指でさわってできる砂の模様を楽しんでいるようでした。自由自在に描かれていく砂の模様とEさんの楽しそうな様子に、HさんやRさんも真似をします。そんなふうに、子どもたちの満足そうな笑顔とともに、砂のアートを楽しむ時間は、ゆっくりと流れていきました。

これからも、子どもたちの豊かな発想から生まれる遊びを大切に見守っていきたいと思います。そして、一人ひとりの子どもたちが、自分らしい遊びの物語を創りながら園生活を楽しんでほしいと願います。





3歳児クラスに進級したばかりのRちゃん。ハサミが使えるのが嬉しいので、保育者のハラハラをよそにと入どんと切り進みます。おれの上には小さいカラフルな紙の切れがいっぱい。「何を作ったの?」なんていう質問はナンセンス!! 3歳のRちゃんが今見てほしいのは、何を作ったかではなくこんなことできるよ!なのでしょう。袋の中にはRちゃんの「今」の「できた!!」がいっぱい詰まっています。

174カラズへのご協力ありがとうございます。この取り組みを始めて4年目となりますが、今年度は今までで最多の保護者様のご参加を頂きました。

我が子にはできるだけ笑顔で、今できる最善の方法で接しようと思うのは、皆様きっと同じ。しかし日々の生活は時に容赦なく、ふと気づくとそんな姿とは遠く離れたところにいることもあって、理想の子育てと現実の距離が重くのしかかる瞬間も。

そんな私たちの日々は永遠に続くような気さえます。来年の今頃の姿を想像することが難しいこともあるかも知れません。しかし、ふと立ち止まって振り返ると、いつの間にか寝返りができ、おむつがはずれ、会話ができるようになり、そして冬の寒さのなかでも、夏の汗ばお季節でも、あんなにずっと繋いでいた手を放す時間が少しずつ長くなっていくことに気づく。

カードを選び、描いているときの気持ち。それは、お腹に我が子を宿したとき、まだ見ぬ我が子のベビー服を選んでいるときの気持ちと重なるような気がします。日常を止めることはできないけれど、今、目の前のこの子がいる幸せはずっと立ち止まったまま。

人は必ず忘れるから、このカードを介して、その記憶を刻むお手伝いができたなら。ある本の一節に「いっしょが愛おしいのは、永遠を手放すことを覚えてなお、今を手放さずにいることを選ぶから。」という言葉を見ました。ずっと続かないと分かっているからこそ愛おしくて、だからこそ今を大切にしたい。もっと言うと、今を大切にすることしかできない。

私たちはカード1つ1つに込められた、そんな保護者様の想いに寄り添いながら、日々を丁寧に重ねていきたいと改めて感じました。

